

工学部だより

2023.5

No.28



旧米沢高等工業学校本館(国の重要文化財)

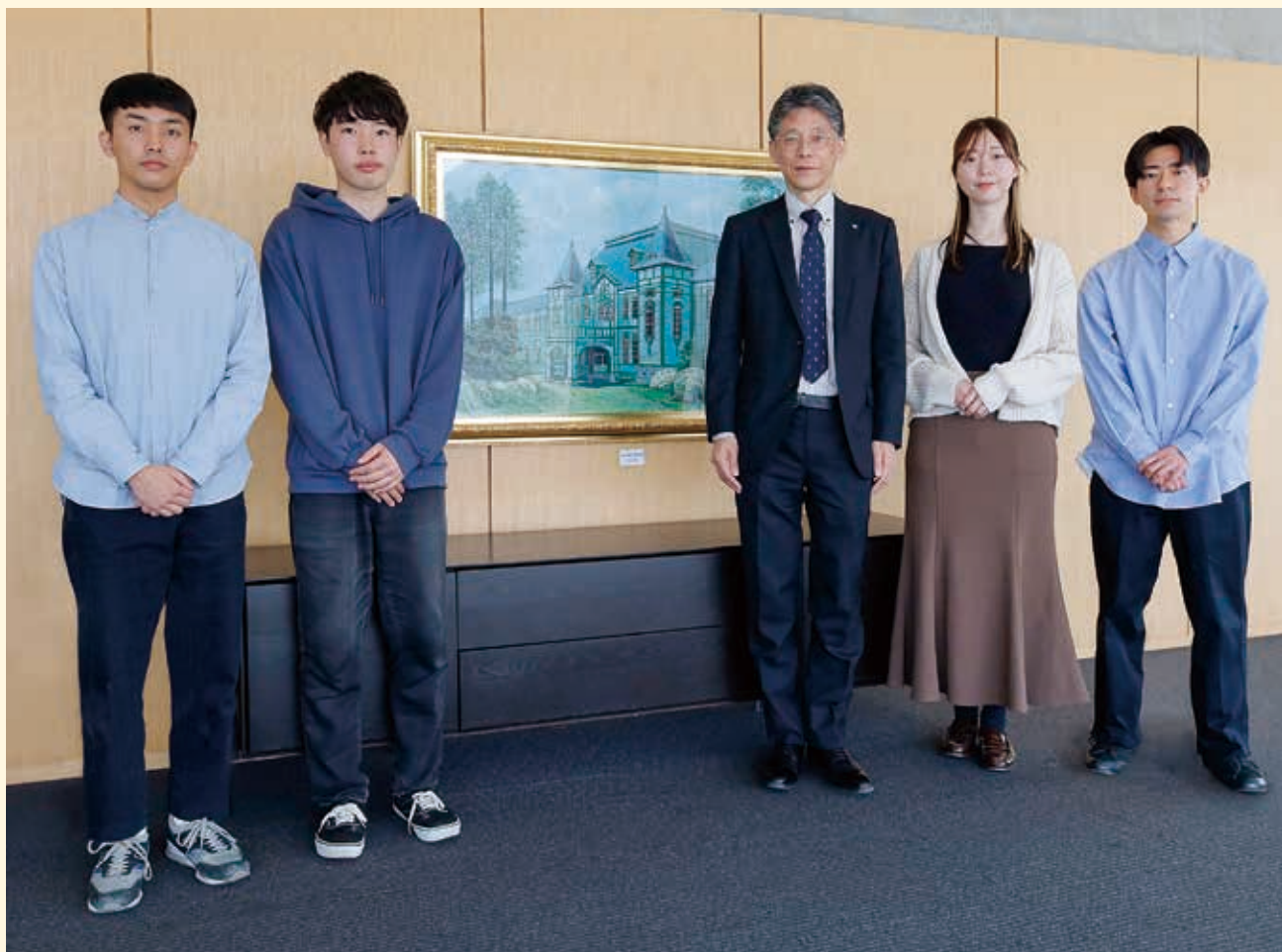
目次

大学が「地域創成」の「核」に。……………	2	令和4年度卒業・修了者の就職状況……………	16
ごあいさつ……………	6	山形大学工学部後援会会則……………	17
学務委員会だより……………	7	令和3年度一般会計収支決算書及び	
教務委員会だより……………	7	令和4年度一般会計収支予算書……………	17
山形の未来を切り開け！……………	8	山形大学工学部父母等の集い	
学科(専攻)だより……………	9	今年度(2022年度)実施報告と	
キャリアサポート室だより……………	12	来年度(2023年度)開催予定……………	18
相談室だより……………	12	お知らせ……………	18
アメリカ バーモントでの留学経験……………	13	令和5年度工学部年間予定表・後援会通信…	18
就職活動と後輩へのアドバイス……………	14		
令和4年度卒業・修了者の就職内定・			
進学先一覧……………	15		

大学が「地域創成」の「核」に。

地域との関わりから、未来を描く

山形大学は「つなぐちから」をキーワードに、社会との共育・共創・共生の実践による幸福社会の実現と、地域に愛され、地域とともに発展する大学を目指しています。学部長の黒田充紀先生と、様々な分野で活躍するサークル・団体のリーダーが活動の内容やこれからへの期待について語り合いました。



工学部長
黒田 充 紀

1992年 武蔵工業大学 大学院博士後期課程修了。足利工業大学 講師、助教授を経て1999年山形大学大学院理工学研究科助教授、2006年より同教授。2022年4月より工学部長・米沢キャンパス長。大学院在学時から1995年頃までは大型公共構造物(特に鋼製橋梁)に関する研究・開発に従事。それ以降は弾塑性力学、連続体力学、塑性加工、金属材料を重点的に研究。



除雪ボランティア団体 代表
山中 智貴

- ・大学院理工学研究科博士前期課程 (工学系)
情報・エレクトロニクス専攻2年生
- ・出身地：宮城県
- ・活動内容：自分で除雪をすることができない地域の高齢者のお宅の、除雪を行うボランティアを行っています。



もの・まちづくりサークル縁 代表
田中 杏我

- ・工学部建築・デザイン学科4年生
- ・出身地：埼玉県
- ・活動内容：実践的なまちづくりへの参加や、空き家の改修に取り組み、若者の居場所の創出と地域との交流を模索している。

◆地域と繋がる、課外活動

黒田 大学は地域の財産です。これまでは主に学校の中で勉強や研究が行われ、一般の方はどこか遠い存在であったかもしれませんが、もっと多くの方に親しみを感じてほしいと思うのです。そのため、学生が地域に出て活動を行うことも重要だと考えております。学生が地域との関わりを持つことで、若者が定着し、そこで起業できるかもしれません。卒業生が大学とずっと関わりをもちながら仕事をするのは、とても理想的なことで、それにより地域創成の核になることを願っています。

皆さんは社会の中で課外活動をされています。地域に出て何を感じ、将来をどんな風に思い描いているのか、ぜひたくさんの人に知っていただけるよう、お話をお聞かせください。まずは自己紹介からお願いします。

田中 私は「もの・まちづくりサークル縁」の代表を務めています。主なメンバーは建築デザイン学科の学生です。米沢キャンパス近くの東町というエリアで、空き家改修に取り組んでいます。設計を進めながら、今後どのように街に開き、どう利活用しているかを検討しています。現段階では学生のシェアハウスを想定しています。東町エリアの再開発にあたって、町の人と行政と大学・学生、いろんな人と関わる「東町プラットフォーム^{*1}」に参加しています。加えて米沢市の秋祭りでブースを設け、子供向けのワークショップを行ったり、「わっさまるしえ^{*2}」で自分たちが手掛けたものを展示したりしています。建築デザイン学科は小白川キャンパスから米沢に移行して昨年が1年目だったのですが、いろんな方との縁に恵まれ感謝しております。

重村 私は「ジャグリングサークル」の代表を務めています。式典や催しなどへのご依頼をいただき、パフォーマンスを披露するという形で地域に関わっています。昨年は小白川キャンパスのジャグリングサークルと合同で式典に参加しました。大人はもちろん、沢山の子どもたちにも喜んでいただきました。活気ある演出ができとてもうれしかったです。今後も米沢周辺だけでなく他のキャンパス周辺でもパフォーマンスを行い、地域に貢献しながら、演技も

上達していけたらなと思っております。

愛宕 私は「花笠サークル四面楚歌工学部支部」の工学部の代表を務めています。山形の伝統的な花笠踊りを地域の方々に見てもらうことを目的としており、県内外から海外まで広く活躍の場があります。先日は山形大学の入学式でも披露いたしました。現在山形市で夏に行われる花笠パレードに向けて、練習しています。

山中 私は「除雪ボランティア」の代表を務めています。除雪が難しい高齢者のお宅へお手伝いに伺っています。除雪なので冬にしか行われませんが、米沢は雪が多く毎年依頼があります。この活動は私が所属している研究室が中心となり、17年ほど前から続けられてきました。正直なところ人が集まらない問題もありますが、毎年試行錯誤しながら募集し活動を続けています。除雪をしながら地域の方と関わることで、感謝の想いも伝わり、とてもやりがいがあります。

◆それぞれが得た、地域に関わるきっかけ

黒田 皆さんは今、地域の方々と関わりながら活動がされていますが、そもそもの活動のきっかけを教えてください。

田中 私が所属する建築デザイン学科は日頃から、どうモノを建て、地域に開くのか考え設計課題に取り組んでいるので、おのずと地域について考えるきっかけは必ずあります。しかし実際に自分の作品をつくっても、街の方に見ていただく機会はありません。実際に形になることもないもどかしさから、実践できる場をつくろうと2年半前ぐらいにこのサークルが立ち上げられました。この街に馴染みがなかった私も、地域の人と関わりながらの活動が楽しくなりました。サークルができたきっかけは大学の課題ですが、そもそも街を良くしたいと考える人が大学に集まった結果です。そんな思いを持つ学生は、他の学科にもいると思うので、今後は他の学科も含め部員を募集し、活動をしていきたいです。

重村 私がジャグリングに夢中になったのは、サークル活動の縁で地域の方と交流しながら、もっと素晴らしい演技がしたいと技を磨く、そしてまた披露す

る、そんな楽しさがきっかけでした。コロナ禍で私の一つ上の代も、その上の代も活動の機会がぐっと減りましたが、規制が緩和し様々な催しへ呼んでいただき、これまで披露できなかった先輩方を含めみんなでパフォーマンスを行ってきました。その時ジャグリングの魅力を地域の方々に披露できたのは、本当に有意義な時間だと改めて感じたのです。これからも地域や学生に伝えながら活動していきたいです。

愛宕 私はもともと山形県出身ではなく、花笠踊りは知りませんでした。なにげない気持ちで大学生活を楽しむことを目的に友達と入部し、イベントでいろんなところに行かせてもらって、地域に興味を持ち関わるようになりました。踊りを見てもらって手拍子をしてもらったり、披露後に感謝されると、本当にうれしいです。先輩たちの代はコロナ禍で演技の場が減ったり、踊る人数も制限されたりしたのですが、今どんどん披露する場が増えてきています。もっといろんな方々に踊りを見てもらって、地域に貢献できたらなと思っています。

山中 私は入った研究室がたまたま除雪ボランティアをしていた、というのがきっかけです。以前、昔の研究室の先輩方に発足時の事をお聞きしたことがあります。17年前、米沢で小学生から高校生、大人の方が除雪のボランティアをしていたようで「時間も体力もありあまっている大学生が除雪をしないなんて」と言う話が出たようなんです。そこから除雪ボランティアが立ち上がったのだとか。私自身も活動をしながら、実際そのとおりだなと思います。大学生は元気で、時間がたくさんあるので、やっぱりやるべき。活動をしながら高齢者の方とお話をする機会も多く、大学生活にはない学びもあります。今後要望があるかぎり、ずっと続けていきたいですね。

◆チャレンジできる環境と米沢、山形の人をあたたかさ。

黒田 皆さん、他県から山形大学に入学されていますが、実際にこちらを訪れ地域の方と関わり、どんなことを感じていますか？

田中 米沢にはもともと有名な建築家がおり、建築へ

強い思いを持つ方が多く、工学部に建築デザイン学科が来ることで何かできるんじゃないかと期待されていて、あたたかく迎え入れてくれました。また米沢市の中心部に宿を作るという設計課題があったのですが、学外で実際に地域の方に発表し「いいね」という感想から、「ここはこうだから」と米沢の地域性を踏まえた厳しい意見までいただきました。自分たちのことを受け止めてくれ、足りないところをもっと伸ばせるよう助言をくださる、それが米沢の人の良さだなと感じました。そこに人のあたたかさ、そして街づくりに対する熱い思いを感じています。

重村 私も活動を通じ、地域の方の街づくりに対する意欲を感じました。また催しに対し、学生が参入することをあたたかく受け入れてくれる、懐の大きさもあります。パフォーマンス内容や人数との兼ね合いでもう少し要望よりも時間を増やしてほしいと提案した際、喜んで受け入れてくれたことがありました。私たちの主体的なアイデアに対し、前向きに意見をくださることが多く、あたたかな人柄を感じています。

愛宕 私は米沢に限らず山形全体でのことになりますが、皆さんすぐく花笠に情熱を持っていらっしゃる、傘を持って外を歩いているだけで「花笠だね」「がんばって」と声をかけてくださったりします。イベントでの相談にも積極的に意見をしてくれたり、細かな指示やアドバイスしてくださり、山形の人々の厳しいだけじゃない優しい心配りを感じました。

山中 除雪ボランティアは、私たち大学生だけではなく、地域の方に協力をしてもらい活動を続けています。何かあったときのために商工会議所のボランティアセンターの方に保険に入れていただいたり、活動を広めるためにテレビや新聞などメディアの方に周知していただいたり、いろんな方の協力に感謝しています。ボランティア活動以外でも、雪を除雪以外に活用できないかと、地域で活動される方と語らうイベントに参加させていただく機会がありました。市民の方の熱い思いに感銘を受けました。

黒田 大学に入学し、学校と家との往復という生活の方もいるかもしれません。社会人になって、仕事と家庭の往復という生き方もあるかもしれません。これまでの日本ではそれが当たり前でした。世界では、



花笠サークル四面楚歌 代表
愛宕 史也

- ・工学部情報・エレクトロニクス学科 3年生
- ・出身地：新潟県
- ・活動内容：私たちは山形の伝統的な踊りである花笠踊りを学生風にアレンジして県内外で踊りを披露させていただいております。



ジャグリングサークル 代表
重村 実里

- ・工学部化学・バイオ工学科 3年生
- ・出身地：千葉県
- ・活動内容：ボールや様々な道具を使った技の練習をしているサークルです。身につけた演技を文化祭や地域のイベントで披露しています。

国民が感じる豊かさをランキングで発表されているのですが、日本はとても低い結果でした。幸福度が高い国の傾向を見てみると、時間の使い方が分割されているんですね。仕事もあって、家庭もある。そして自分の趣味や、社会活動など、いろんなところにその人の時間が使われているんです。そういう人たちは幸福度が高いらしいのです。仕事でちょっとうまくいなくても、他のところで達成感が得られたりするので、心が豊かになる。それが豊かさだと思えます。ですから皆さんも地域と関わる活動をして、充実した顔をされていますよね。心の在り方が素晴らしいと感じました。まだ地域との繋がりや交流がない学生さんもたくさんいますから、様々な学生生活の仕方、あるいは人生観をもっともっと広げてもらいたいと思います。

◆これからの活動と、地域への期待

田中 私たちは空き家を改修しているのですが、同地域には100年企業の建物である東光の酒蔵や、有名な建築家が設計した建物があったり、このエリアはもっと盛り上がると期待されています。地域の人たちには学生に来てほしいという意見をいただきました。しかし実際に歩いてみると、学生は通りすぎてしまうだけの場所になっているのが現状です。そこで、自分たちは空き家を改修し活用することで、大学生が何の目的もなく立ち寄れるような場所をつくりたいと考えました。米沢は目的がないと行きづらい傾向もあるのかもしれませんが。例えば買い物や飲み会など、目的があればその場所に訪れるのですが、逆に目的がないと実は自分たちは街に居場所がないんだと感じたのです。そうした学生がなんとなく立ち寄れる場所を自分たちはつくっていきたいと考えています。子どもの頃なんの意味もなく、ただ公園にサッカーをしに行くみたいな、大学生にとってそんな居心地の良い場所ができたらいいなと思っています。建築デザイン学科の学生が工学部と地域との架け橋になりたいです。

重村 私たちのサークルは規制の緩和によるさらなる出演機会の増加に期待をしています。また、これまでは呼んでいただいたところに向向くというスタイルでしたが、こちらから出演のお願いもしてみたいです。ここに私たちが行ったら人が集まる、そんな自信をもっていろんな場面で声掛けしてみたいと思っています。そのために、練習をするのはもちろん、人を集めるためにどんな方法を用いるべきか、積極的にツイッターやInstagram、SNSなどで学生ならではの発信する力を活かし、広報活動もしていきたいです。

愛宕 私たちも花笠を踊らせていただく場をもっと増やしたいと思っています。特に今の3、4年生は昨

年が初めてのパレードでした。コロナ禍にも多少機会はあったのですが、人数制限がありました。花笠はやっぱり多人数で踊ってこそ迫力やカッコよさ、魅力がより伝わると思います。もっとたくさんメンバーでいろんなところで踊りたいですね。

山中 除雪活動は、高齢者と話すときに感染予防リスクを考慮しマスクを着用していました。以前はあれば本学や栄養大の学生さんに声をかけ、いろんな方と活動をしていたのですが、コロナ禍ではできませんでした。集まってもくもくと除雪をし、ちょっと話して解散、というのが現状でした。十数年前には地域の方と交流会なども行われていたと聞いています。除雪が活動の目的ではありますが、マスクを外して大々的に活動ができるようになったら、ただ集まるだけではなくて、決起会や交流会をしながら地域との関わりを大切にしていきたいですね。

黒田 これまでの日本は、生活の軸のメインを仕事と考えている人が多かったのではないのでしょうか。そうすると、仕事は主に都会にあって、ライフスタイルにも偏りがあります。著しくバランスを崩し、山形は過疎地と言われるようになってしまいました。都市で働くことが悪いわけではありません。しかし、もっともっと多様性を持って生きるべきです。みんなが自分の価値観で生き方を選択できるようにすることが、地方創生の一番の肝だと思っています。学生のうちに地域に出ていろんな活動をしていれば、自分がどんな風に生きたいか、きっとビジョンが自然と見えてくるはずですよ。ぜひ、多くの学生さんを皆さんの活動に誘ってくださいね。それから米沢は春夏秋冬、全部の季節に大きなお祭りがあります。そういうところにもサークルとして参加したり、遊びに行ったりして交流などしてもらいたいですね。



- ※1 東町プラットフォーム
まちづくり会社、町内会、大学、DMO、金融機関、行政などで組織され、それぞれの立場や年齢をこえて東町地域の理想の将来像を考え話し合い、実践していくことで、地域をマネジメントしていくための場。
- ※2 わっさまるしえ
【今の米沢の子どもたちが、20年後もここ米沢で、毎日を楽しく過ごして欲しい】という信念のもと、イベントを通じて、やりたいこと・できることを持ち寄りながら、関わり合いながら、米沢を育てていく



ごあいさつ

工学部長 黒田 充 紀

工学部後援会会員の皆様には、日頃から教育・修学環境向上ならびに学生の課外活動に対し多大なるご支援を頂きまして心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大は未だ終息には達していませんが、大学における様々な活動は感染拡大に注意しながら、基本的には正常化しております。コロナ禍にあった過去3年間の経験を通して、ゼミ、面談、研究活動、会議等は状況に応じて対面とオンラインの使い分けあるいは併用が浸透しておりますので、以前よりは格段に活動環境が良くなったと言えます。授業については、基本的には対面で行うこととしていますが、いずれの授業においても電子授業システム（本学ではWeb Class）が継続して利用されます。電子授業システムにおいては教員と学生はどこに居ても常時繋がっている状態にあり、課題・宿題等は全て電子的に提出でき、成績管理や質疑応答もシステム内で行います。学生の皆さんには安心して学習に臨んでもらえると思います。紙のノートは一切持たず、電子パッドのみの学生も増えてきており、時代の変化を感じております。リアルタイム授業（対面またはオンラインでの時間共有形式）に加えて、オンデマンド授業（デジタルコンテンツを各自の時間を利用して学習し質疑応答・課題提出は別途電子的に行う）の更なる有効利用についても検討しており、充実させていきたいと考えております。こうした環境の下で教育・研究を続けてまいりますので、再び感染症拡大等の緊急事態になっても備えは十分にあると言えます。

工学部では、例年10月に、市内にある山形県立米沢女子短期大学、同米沢栄養大学と合同で学園祭「吾妻祭」を開催してきました。コロナ禍の初めの2年間は開催を見合わせましたが、2022年度は対面で開催することができました。大学における2年間のブランクは大きく、前回を知る学生も少なくなりほとんどゼロから再構築することとなりました。サークル団体はスポーツ系、文化系、ボランティア系など多岐に渡りますが、吾妻祭実行委員会もサークル団体の一つであり、多数の学生が参画・団結して、吾妻祭を復活・成功に導いてくれました。「高校生の時には文化祭が中止になって悔しい思いをし

たので、大学ではどうしても自分達の手で創ってみたいかった」という学生諸氏の熱い声も聞こえてきました。この過程では、米沢市学園都市推進協議会をはじめ県内・市内の様々な団体・企業様並びに卒業生の方々から多大なるご支援を頂きました。

今後は一層変化に富んだ時代となることが予想されますので、卒業後の進路も就職という概念だけでなく、ライフデザインとして捉えることがますます重要になると考えています。そのためには多くの人と出会い、様々な経験をすることも学修と並んで重要です。基本的に活動制限はなくなりますので、学生の皆さんにはキャンパス内での勉強・研究だけでなく、是非、外へ足を伸ばし、社会と触れ合って頂きたいと思います。米沢市では、春、夏、秋、冬にそれぞれお祭りがありますので、こうした機会も利用して多くの学生が地域との関わりを持ってほしいと思っております。

就職そのものに関しては、工学系学生の立場からすると順調と言えます。しかしながら、社会の側から見ると必ずしも順調とは言えない状況があります。若い世代の就労人口の減少と人口分布の偏りから、多くの地方の企業・団体において技術者人材不足に陥っています。山形県内の企業様からは思うように人材が確保できないという声が毎年多数寄せられておりますが、十分に伝えられていないというのが現状です。大都市圏外の地域や中規模・小規模企業では共通の問題となっています。工学系の学部卒業生・大学院修了者は、各分野の専門的な強みを身につけていますので、進路（勤務地を選ぶを含む）については自由度が大きいと言えます。今、業績が良いからといって数年後はわからないのが今の時代です。各人の職業観やライフデザインは多様ですので、それぞれの価値観に合った方向に自信を持って第一歩を踏み出して頂きたいと思います。その結果、社会・地域全体のバランスが適正に是正されていくことを期待したいです。

教職員一丸となって教育・研究・大学運営に努めてまいりますので、引き続きご支援を頂けますようよろしくお願い申し上げます。

学務委員会だより

学務委員会委員長 増原陽人

(大学院理工学研究科 化学・バイオ工学専攻 教授)



学務委員会は、学部における教育カリキュラムの編成・指導や学生生活における支援のための様々な実務を行う委員会です。

教育面では、新旧の教育課程が並行した期間も終わり、新6学科での教育も混乱無く進めてきており、令和5年度からは、新たな時代に則した教育の充実化を図るため、基盤共通科目としてデータサイエンスに関する講義も開始されます。現在は、コロナ禍の混乱からコロナ以前の生活に戻りつつあり、講義の大半が対面での実施に戻っております。その一方で、ポストコロナ時代に入りつつあり、学生・教職員共々、新たな課題に対応するための努力に邁進しております。学生生活の支援では、

特に心のケアが近年の大きな課題となっており、学生相談室、障がい学生支援センターと共にきめ細かな対応を実施しております。大学は、社会に出る前の最後の教育機関です。日常生活・講義・研究活動を通じた経験を積み、社会人として必要な基礎力を身に付けたうえで卒業・修了して頂ければと思っております。保護者の皆様におかれましては、ご息・ご令嬢に関して何か不安・疑問に感じる点が御座いましたら、アドバイザー教員等へ御相談頂きますよう宜しく御願ひ申し上げます。

教務委員会だより

教務委員会委員長 齊藤敦

(大学院理工学研究科 情報・エレクトロニクス専攻 教授)



教務委員会は、大学院博士前期課程、及び大学院博士後期課程のカリキュラム運営を担当する部門であり、次世代を牽引する人材を育成するために様々な

ことに対応しています。2021年度に大学院博士前期課程（理工学研究科）が改組され、工学系として新たに4専攻をスタートし、2022年度末に第1期生が修了しました。また、2023年度には、大学院博士後期課程が改組となり、これまでの5専攻を1専攻にまとめた「先進工学専攻」がスタートしました。これまでの専攻は、それぞれ「化学・バイオ工学分野」、「機械システム工学分野」、「情報・エレクトロニクス分野」、「建築・デザイン・マネジメント

分野」として教育・研究を実施いたしますが、分野の壁を越え、最先端の科学的な知見を融合してイノベーションを起こしていく先進的な工学のアプローチを身に付けた高度博士人材の育成を目標に掲げております。さらに、博士後期課程の学生を強力にサポートするための取り組みとして、「ソフトマターイノベーション博士人材育成プログラム」、「博士課程5年一貫教育プログラム」を継続し、社会を革新する高度博士人材の育成に取り組んでいます。学生たちが自由に学び、自立していく仕組みを作っていくために、教職員一同様々な取り組みを進めてまいりますので、関係の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

山形の未来を切り開け！



この1年の国際交流活動

工学部国際交流センター副センター長 准教授 仁科 浩 美

国際交流活動における海外派遣や受入が少しずつ回復しつつあり、2022年度は「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」で3名の学生が米国やドイツへ、また「学生大使」派遣プログラム（学際）で2名がインドネシアやベトナムに渡航しました。しかしながら、毎年実施しているグループでの海外研修「工学部国際連携サマープログラム」は相手校と協議の結果、次年度に延期となりました。そのため、これに代わる国際交流プログラムとして、11月から3回にわたり、南米ボリビアの大学間協定校・サンアンドレス大学とオンライン交流を実施しました。実際にボリビアまで渡航するとなると、飛行機で丸一日以上かかりますが、オンラインでは13時間の時差はあるものの瞬時に互いの顔を見ることができます。今回は「社会問題をテクノロジーの視点で解決する」をテーマにグループで世界共通に抱える問題を英語で話し合いました。

また、冬季休暇期間中には、大学間協定校である

新モンゴル学園の日本語を学ぶ学生とオンライン交流を行いました。この交流では普段の学生生活や年末年始の過ごし方等、学生の日常に関する情報交換を行い、会話を楽しみました。

さらに、今年度は2008年から開始した前述のサマープログラムについて、これまでの参加者に対し追跡調査を行いました。その結果、6割を超える回答者が、仕事において海外の取引先・本支社とのやりとりや、海外出張・海外赴任等で「海外との関わりがある」と答えたことから、社会がグローバルに展開し、将来、その一端を自分たちも担うことを学生時代から意識させる重要性を強く感じました。回答者の多くがこのプログラムに参加したことがきっかけで視野が拡大したと述べており、異文化体験入門プログラムとしての意義を再確認することができました。まだ海外の学生との交流経験がない学生の皆さんには、この夏タイで開催予定のサマープログラムにぜひ参加してほしいと思います。



ボリビアとのオンライン交流

学科(専攻)だより

高分子・有機材料工学科

学科長 教授 西岡 昭博



2017年度の学科改組により高分子・有機材料工学科が誕生し、早いもので6年が経過しようとしています。この3月には本学科の1期生が大学院博士前期課程を修了します。彼らの学生生活の半分近くは新型コロナウイルスとの共存であったと思

います。今年で発生から約3年が経過しましたが、最初の2年は対面講義、イベント開催、学会出張の禁止や自粛など様々な影響があり、本来の教育研究活動が難しい状態を余儀なくされました。本学科の教職員はこのような状況でも最大限の学習環境を提供すべく努力をしてきましたが、学生達にとってはオンライン講義など慣れない環境の中での修学により大変な苦勞をされたと思います。3年目となった2022年度にはほぼ全ての講義が対面により実施することができました。学生も教員も対面での講義を楽しんでいるようにも感じられ、やっと本来の大学の活気が戻ってきたと感じています。当初は学会の中止なども相次ぎ、教員や学生の学会発表の機会が少なくなっていました。最近では以前のように学生たちの学会発表も盛んになりました。それに伴い

受賞報告も多くなってきています。また今年度は卒業研究発表会、修士論文公聴会も対面で実施することができ、学生達の研究成果に対して活発な議論が交わされ、やはり対面での議論の重要性を感じました。

新型コロナウイルスの影響は続くようですが、引き続き感染対策を徹底した上で教職員が一丸となり充実した教育環境を学生に提供すべく努力と工夫を行っていきます。引き続き、本学科の活動に対して保護者の皆様、後援会の皆様からの温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



「ベストプレゼンテーション賞」受賞者
(修士学位論文公聴会、卒業研究発表会)
*撮影時のみマスクを外しています(2023年2月)

化学・バイオ工学科

学科長 教授 遠藤 昌敏



この冬も最初はすごく寒く、どうなってしまうかと思いましたが、途中から雪もそこまで多くなく、今年の桜の開花は例年より早くなるのではと言われております。化学・バイオ工学科もできてから6年が経ち、化学・バイオ工学専攻最初の修了

生を送り出せます。写真は学科の卒業研究発表会の様子ですが、大学院の公聴会と併せた最優秀発表、優秀発表の表彰式を行いました。新型コロナの影響を丸々と受けた学生生活だったことと思いますが、世界的によく落ち着きが見られるようになり、これまで行えなかったことを思い切り行って欲しいと

思っています。大学としても新年度からはだいぶ通常に戻れるのではと期待しています。新型コロナ禍の影響で進んだオンラインの活用等を生かした形で前進できるよう教職員一同目指しておりますので、学生の皆にも希望に満ちた学生生活を送ってもらいたいと思います。今後とも本学科の活動に対してご理解いただき、皆様方のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



情報・エレクトロニクス学科

学科長 教授 深見 忠典



長かった冬に終わりを告げ、新年度を迎える季節となり、来年度の就職を控えた学生の就職活動も活発になってきました。今年度の合同企業説明会は、久々に対面で開催され、工学部においても

ウイズコロナへの移行が加速していると感じます。

さて、本学科では今年度をもって定年によりご退職されるお二人の先生の最終講義が、多くの聴講者参加のもと行われました。野本弘平教授は「山形大学に来て考えたこと—ご縁と巡り会—」、小山明夫教授は「ネットワークの研究を振り返って」という題目で、ご自身の長年にわたるご研究を中心にお話になりました。お二方のこれまで

の学科へのご貢献に感謝しつつ、新年度に向け思いを新たに、学科教職員一丸となり教育研究活動に取り組んで参ります。引き続き、皆様方のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



最終講義の風景(左：野本教授、右：小山教授)

機械システム工学科

学科長 教授 峯田 貴



本学科・専攻では、コロナ禍3年目の2022年度も、オンラインの長所も取り入れながら、実習・実験科目ははじめ対面での講義の実施に努め、小規模の感染等に対処しつつ、教育・研究活動を継続してきました。卒業研究と大学院では支障なく研究活動に邁進でき、学生諸君の大きな成長につながったものと思います。

本学科の学部教育では、2023年度から、カリキュラムの流れを見直して科目を一部改訂し、より効果的に専門科目を修得していく教育を推進していきます。大学院博士前期課程では、改組後の1期生が2023年春に修了を迎え、逞しく巣立っていきました。博士後期課程も改組に伴い「先進工学専攻」の中のコースとして新たなスタートを切ります。

2023年春には、卒業祝賀会がまだ開催困難であり、本学科・専攻では、

本年も独自に卒業学生の表彰式を開催し、学内の各賞や諸学会等からの各賞の受賞学生を表彰し、在学中の研鑽と成果を讃えました。コロナ禍でも本学科の就職は好調でしたが、さらに企業求人やOB訪問が活発になり、社会の一層大きな期待も感じています。教職員一同、引き続き在校生の進路も強力に支援していきます。

今後も「コロナ後」に向かう社会状況にも対応しながら、研究と教育を充実して参ります。父母等の皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます。



本学科・専攻独自の卒業時の学生表彰式(2022年度)

建築・デザイン学科

学科長 教授 三 辻 和 弥



米沢キャンパスへの移転が完了し、新しい環境で研究・教育活動をスタートさせて1年が経ちました。学生達の活動も活発になり、昨

年には卒業生を中心に「多様性の広場」に多目的スロープやベンチを設置して利用者の交流を促進する実験的な試みを行いました。オープンキャンパスでは模擬講義や模型展示、研究紹介などに多くの来場者があり、学生作品集の配布は大変好評でした。吾妻祭では振動台を利用して多くの周辺住民の方に地震体験を実施しました。

2023年2月には主に建築分野担当の技術職員として大和田翔さんを迎えました。少しずつ設備や装置の稼働を始めたところですが、

建築・デザイン分野の研究・教育の最先端を意識しつつ、これからも地域に根差した活動を行っていきたいと考えています。今後とも皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。



オープンキャンパス風景

システム創成工学科

学科長 教授 片 桐 洋 史



2010年に設置されたシステム創成工学科は今年度14期生を迎えました。本学科では定員50名という比較的少人数な特徴を活かして、数学・物理などの基礎科目については少人数制教育を実施し、社会人基礎力の養成にも力を入れています。「シ

ステム創成入門」では特許について学びながら学生自らが特許案を考え、優れたものを文部科学省らが主催するパテントコンテストに毎年応募しています。昨年度のパテントコンテストでは1年生3名が優秀賞に選ばれました。また、講義だけでは物足りない学生に対しては「チャレンジコース」が提供されています。昨年度は人が手を出すとセンサが反応して握手をするロボットを製作し、第13回学生ロボティクス・メカトロニクスコンテストにおいて発表しました。

講義やサークル活動の制限が徐々に緩和されコロナ前の状態に戻りつつあります。充実した学生生活

が送れるよう教職員一同努めてまいります。今後とも皆様方の温かいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



チャレンジコースの様子

キャリアサポート室だより



工学部では、各学科の就職担当教員とキャリアサポート室を中心に学生のキャリア形成への支援活動を展開しております。

各学科では、就職担当教員を委員とするキャリアサポート室会議を開催し、学部全体での情報共有を図るとともに、学生との個別進路面談や、企業・産業界との情報交換を通して、就職支援に積極的に関わっています。キャリアサポート室では、年間を通して就職相談を開催し、学生個人との面談を通して就職活動の悩みや姿勢、エントリーシート・自己PRの書き方など、細やかなアドバイスを行っています。

令和4年度の企業等への就職状況については、3月の時点で100%に近い内定率に達しました。大学院修了予定者の就職内定についても同様に順調でした。

今年度も、3月1日から3日間にわたり米沢市営体育館にて、大規模な合同企業説明会（山形大学・県立米沢栄養大学・県立米沢女子短期大学の共催）

キャリアサポートセンター長 杉本 昌隆

（大学院有機材料システム研究科 有機材料システム専攻 教授）

を4年ぶりに対面にて開催しました。午前と午後の入れ替え制で企業数は全387社、学生の1日あたりの参加者は初日から延べ389、267、297人と4年前に比べ、参加学生の数は大きく減ってしまいました。オンラインでの授業や就職活動に慣れた学生の皆さんではありますが、参加者からは対面による説明会の良さへの感想が聞かれ、改めて顔を見ながら直接会って話すことの大事さを実感することができました。今後も、合同企業説明会を学生の皆さんと企業との良きマッチングの場として提供したいと思えます。

コロナ禍による社会の変化に伴って、仕事の形態や必要とされる技術も大きく変わっていきます。在学生の皆さんは、自分の専門的強みは何か、どのように社会に貢献するのか、どのような生き方をするのかを真剣に考え、社会に大きく羽ばたいて欲しいと思えます。

これからも、教職員一丸となって全力で学生の就職活動をサポートして参ります。

学生相談室だより



学生相談室は、学生の皆さんの相談事に対応する部門です。相談事は学習面、生活面のみならず様々な悩み事、困り事など多岐に渡ります。学生相談室は

保健管理センター内にあり、カウンセラーが学生に寄り添いながらお話をお聞きしています。そして相談事を解決できるように全力でサポートしています。しかし、学生の皆さんの中には学生相談室に相談する事に躊躇してしまうこともあるかもしれません。そのような場合は、学科、専攻のアドバイザー教員、研究室の指導教員、5号館学生サポートセンター内の学務課学生支援担当でも相談を受け付けています。また対面での相談や面談に不安がある場合はメール、

学生相談室長 今野 博行

（大学院理工学研究科 化学・バイオ工学専攻 教授）

電話、オンラインを通じて対応しています。

一方で、定期的な問診やニュースレターの発行、啓発セミナーなども行っています。今年度は同じ悩みを抱える学生同士の交流会、居場所支援なども実施しました。今後もこのような活動を続けていければと思っております。

コロナ禍の今年度は、対面での講義が実施できたものの、マスク越しでの会話、黙食、密を避ける事などにストレスを感じた方も多かったように思います。オンライン講義に慣れてしまい、キャンパスに来ることが億劫になる方もいたかもしれません。些細なことでも話してみると気持ちが楽になることもあります。いつでも学生相談室にお立ち寄りください。

アメリカ バーモントでの留学経験



大学院有機材料システム研究科 博士前期課程有機材料システム専攻 2年 貝和 春佳

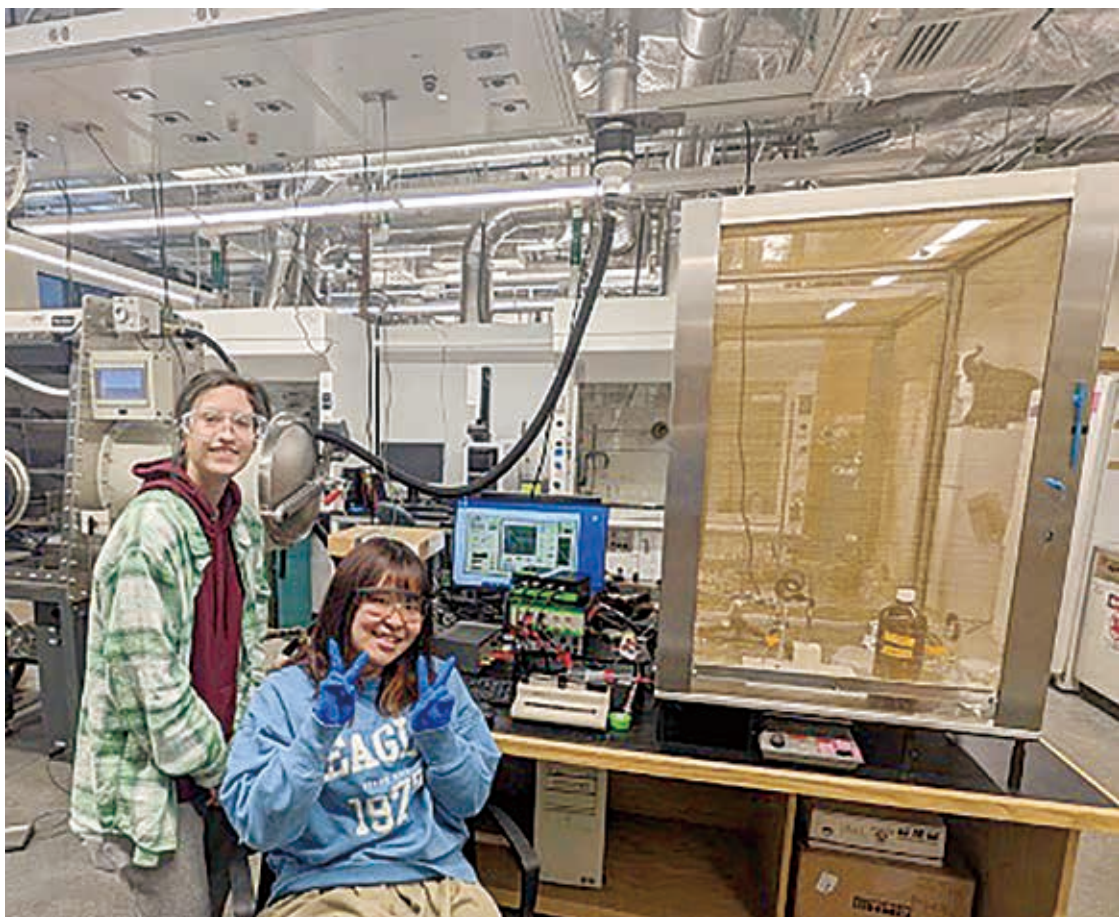
アメリカのバーモント大学に2022年10月から2023年1月の約3ヶ月間、研究留学をしていました。コロナ禍での留学で、留学前は手続き等が非常に大変でしたが、周りの人のサポートのおかげで無事渡航することができ、充実という言葉では言い表せないほど多くの貴重な経験をすることができました。

私が今回の留学を志したのは山形大学の学生大使プログラムでインドネシアのガジャマダ大学に2回、日本語を教えに行き、海外への意欲が高まったことがきっかけです。

アメリカの留学先では、平日は研究室で実験やゼミに参加し、休日は登山や旅行に行きアメリカ生活を十分に満喫することができました。留学中に最も大変だったのは、ホームステイ先のホストファミリーとの生活に慣れることでした。幼い子供とペッ

トがいたこともあり、食事から休日の過ごし方まであまりにも日本とは違いすぎて当初は非常に驚き、ショックを受けました。その上、英語もわからず通じずで苦しみましたが、ホストファミリーが英語をできないことを気にしないで自分がやりたいことをやるべきだとたくさん励ましてくれました。その時から、ホストファミリーを真似して、常に笑顔で自分にも他人にも素直な気持ちでいることを心がけるようにしました。その結果、新たな出会いが増え、楽しい時間を共に過ごすことができ、喜びを感じていきました。ホストファミリーの支えのおかげで留学を有意義なものにできたと感じています。

4月からは新社会人になりますが、この留学での出会いと学びを自ら継続させたいと考えています。山形大学には留学できる環境・機会が多くあるので、留学を通して学び・発見を実感する人が増えることを期待しています。



就職活動と後輩へのアドバイス



後輩へのアドバイス

情報・エレクトロニクス学科 4年 豊田 彩人

私はB3の夏休みから就職活動を始めました。公務員を目指していたので国家公務員や地方公務員、外郭団体の説明会に参加し、最終的に、自身の強みを生かせる機関の内定を承諾しました。

私からのアドバイスは「多くの情報を集める」ことです。仕事でのやりがいや給与はもちろんですが、組織の性格や姿勢を見ることで自分がやりたいことと合っているかがわかると思います。説明会は応募多数で締め切ってしまうところもあるので、早めに確認することをおすすめします。説明会に参加し、良さそうと思ったら本選考にエントリーしてみましょう。ここでも情報の多さは役に立ちます。相手がどんなことを聞いてくるのかがわかれば、自分の

経験や強みをわかりやすくまとめようとして面接を受けられます。インターンシップに参加していなかったとしても、自身のことを的確に伝えることができれば、評価してくれる人が必ずいるはずですよ。大企業だから私は絶対無理だ、と思っても挑戦してみてください。山形大学の学生なら、どんな企業の選考であっても乗り越える力が養われていると思います。

挑戦しないのはもったいないことです。結果が悪かったとしても、それはそれでいい経験だったと思ひましょう。研究と同じように、失敗や挫折から学ぶことはたくさんあります。みなさんの挑戦を期待しています。



私の就職活動と後輩へのアドバイス

機械システム工学専攻 2年 尾崎 良子

B3当時、私は大学院に進学するか、就職するか、迷っていました。そのためB3の6月ごろから就活を意識し始めました。とはいえ、進学も考えていたため志望する具体的な職種は決めず、興味を持った就活イベントに幅広く参加していました。

その後、大学院への進学を決め、M1の6月ごろに就活を再開しました。この時期の就活はコロナ禍という状況もあり、対面式のインターンシップはあまりなく、また長期のオンラインインターンも少なかったため、1DAYまたは短期のインターンがメインでした。その分、数を熟すことができたため同じ企業の就活イベントも複数参加し、同企業の様々な立場や職種の働く方と接することで業界や企業をより深く理解できたと思います。

結果的に進学しましたが、時間に余裕のあるB3の時期に広い目で企業研究ができたので、M1で再開したときも落ち着いて取り組めたと思います。

就職活動を通して、業界・企業理解や試験対策ももちろん重要ですが、ESや面接の中で自分自身について多く問われたと感じました。一つの行動に対してもどう感じたのか、代案は挙がらなかったのか、今後はどうするのか、など、いわゆる深掘りが多いです。就活のために行動するわけではありませんが、何か行動を起こすときや打ち込んでいるときに、一歩引いてその時自分がどう考えているか意識してみると自己分析や就活の軸探しのヒントになるかもしれません。悔いが残らないよう頑張ってください。

令和4年度卒業・修了者の就職内定・進学先一覧

1. 工学部

(令和5年4月15日現在)

コース	学科	就職内定先・進学予定先 (順不同)
昼間・Aクラス	高分子・有機材料工学	ASEジャパン(株)、アイ・イー・シー(株)、秋田県職員、キオクシア(株)、スターティア(株)、東北エプソン(株)、松田産業(株)、丸紅ブラス(株)、三井住友カード(株)、武蔵エンジニアリング(株)、ムネカタ(株)、山形県警、(株)IDOM、(株)エスイープランニング、(株)クライトム、(株)ジェー・シー・アイ、(株)タカキベーカーリー、(株)チノー、(株)デンロコーポレーション、(株)ドリームキャリアー、(株)ニクニアサヒ、(株)ニフコ山形、(株)松風、(株)メイテック、(株)原田伸銅所、経済産業省東北経済産業局、国土交通省北海道開発局、山形航空電子(株)、住友電装(株)、東京化成工業(株)、富士フィルムビジネスイノベーションジャパン(株)、山形大学大学院(101名)、東北大学大学院、東京工業大学大学院、北陸先端科学技術大学院大学
	化学・バイオ工学	(株)高研(2名)、山形県職員(2名)、AGCガラスプロダクツ(株)、OKIサーキットテクノロジー(株)、アシザワファインテック(株)、アルプス薬品工業(株)、磯部塗装(株)、伊藤ハムデリー(株)、神奈川県職員、上山市職員、協同薬品(株)、サークル機工(株)、寒河江市職員、さくら市職員、品川リフラクトリズ(株)、ジヤトコ(株)、新日本空調(株)、スズキハイテック(株)、住江織物(株)、住友大阪セメント(株)、ゼリア新薬工業(株)、千住金属工業(株)、東海ビジネスサービス(株)、東ソー・クォーツ(株)、栃木県職員、栃木トヨタ自動車(株)、中野市職員、日総工産(株)、ニプロファーマ(株)、日本食研ホールディングス(株)、日本テキサス・インストルメンツ合同会社、日本ファインセラミックス(株)、日本連続端子(株)、野川商事(株)、浜理PFST(株)米沢工場、東日本電信電話(株)、福島県職員、北栄建設(株)、三井・ケマーズフロロプロダクツ(株)、メジャーヴィーナス・ジャパン(株)、山形ガス(株)、山形県警、ラピスセミコンダクタ(株)、レイズネクス(株)、(株)First Drop、(株)アイネット、(株)アムコーテクノロジージャパン、(株)岩手銀行、(株)エクストリンク、(株)カーメイト、(株)クラレ新潟事業所、(株)ケアリッツ・アンド・パートナーズ、(株)小森マシナリー、(株)コンヴァノ、(株)サテイス製菓、(株)タケエイ、(株)でん六、(株)日立ハイシステム21、(株)フジシステムズ、(株)プラス・テック、(株)マイコー、(株)明電舎、(株)ユー・エス・イー、(株)ワイ・ディ・シー、山形大学大学院(68名)、東北大学大学院(2名)、東京工業大学大学院(2名)、名古屋大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、岩手大学大学院
	情報・エレクトロニクス	(株)ソフトクリエイトホールディングス(4名)、セコム工業(株)(2名)、東北電力(株)(2名)、(株)GA technologies(2名)、(株)YCC情報システム(2名)、NECソリューションイノベータ(株)、NSW(株)、SCSK Minorityソリューションズ(株)、エリックソフジャパン(株)、王子製鉄(株)、ゲンキー(株)、サイボウズ(株)、シャープセンシングテクノロジー(株)、ジヤトコ(株)、セントラルソフト(株)、ソレキア(株)、東洋電機(株)、名古屋鉄道(株)、日販テックシード(株)、日本信号(株)、日本データスクリ(株)、日本電設工業(株)、東日本NSソリューションズ(株)、ミネベアミツミ(株)山形事業所、モバイルコミュニケーションズ(株)、山形カシオ(株)、山形市職員、ユーピーアール(株)、(株)NTTデータMSE、(株)アイ・エス・ピー、(株)アルプス技研、(株)エーアイネット・テクノロジー、(株)エム・ソフト、(株)キリウ、(株)クリエイション・ビュー、(株)クロスデバイス、(株)コンピュータシステムハウス、(株)グローバルアソシエイツ、(株)ジャステック、(株)スパイスファクトリー、(株)セブン&アイ・ネットメディア、(株)テクノプロテクノプロ・デザイン社、(株)トインクス、(株)パナソニックシステムネットワークス開発研究所、(株)ピコラ、(株)マイスターエンジニアリング、(株)メイテック、(株)ユアテック、(株)栃木銀行、(株)日立ソリューションズ、個人情報保護委員会、三重県職員、成田空港警備隊、東日本旅客鉄道(株)、日本基礎技術(株)、日本モレックス合同会社、米沢電話設備(株)、鈴与システムテクノロジー(株)、山形大学大学院(60名)、東北大学大学院(3名)、東京工業大学大学院(3名)、北陸先端科学技術大学院大学(2名)、筑波大学大学院、九州大学大学院、名古屋大学大学院、茨城大学大学院、東京大学大学院、新潟大学大学院
	機械システム工学	(株)メイテック(4名)、ASEジャパン(株)、Ceico(株)、I-PEX(株)、アイジー工業(株)、愛知機械工業(株)、アディエント合同会社、アンドロポティクス(株)、いすゞ自動車(株)、グリコニューファクチャリングジャパン(株)、ジヤトコ(株)、スズキ(株)、スミダ電機(株)、総務省、テイ・エス・エック(株)、東北ネットワーク(株)、日本エレベーター製造(株)、日本サーモスタット(株)、日本ジー・ティー(株)、日本プロセス(株)、日立金属(株)、日立グローバルライフソリューションズ(株)、日立ジョンソンコントロールズ空調(株)、日野自動車(株)、プログレス・テクノロジー(株)、山形航空電子(株)、山形市職員、ユニプレス(株)、レイズネクス(株)、レオン自動車(株)、(株)JR東日本情報システム、(株)アルカディア、(株)イトーキ、(株)エイジェック、(株)かわでん、(株)シークス、(株)システムサービス、(株)トップエンジニアリング、(株)トボン、(株)トランスロン、(株)パワーソリューションズ、(株)日立ニコトランスミッション、(株)ファナック、(株)マクスエンジニアリング、(株)ミルボン、(株)彌満和製作所、(株)ユアテック、(株)ユーコム、(株)ユニテックス、(株)レグルカセ、(株)東陽理化学研究所、(株)日立建機カミノ、山形カシオ(株)、山形県職員、住友理工(株)、東日本旅客鉄道(株)、東北電力(株)、日本軽金属(株)、日本コークス工業(株)、日立パワーソリューションズ(株)、白鷹町職員、富谷市職員、山形大学大学院(61名)、東北大学大学院(4名)、筑波大学大学院(2名)、福島大学大学院(2名)、宇都宮大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、北海道大学院、秋田大学
	建築・デザイン	アイワビルド(株)、秋田県職員、イオンモール(株)、宮城県職員、盛岡市職員、山形県職員、(株)OKUTA、(株)UnG、(株)加藤組、(株)サードウェブ、(株)自遊人、(株)彩ユニオン、(株)竹中工務店、(株)乃村工藝社、新山形ホームテック(株)、生和コーポレーション(株)、大和リース(株)、東日本高速道路(株)、山形大学大学院(2名)、東北大学大学院(2名)、東京都立大学大学院(2名)、東京大学大学院、横浜市立大学大学院、筑波大学大学院
フレックス	システム創成工学科 SWS東日本(株)、青森県職員、桂不動産(株)、シチズン千葉精密(株)、シンプルクス・ホールディング(株)、栃木県職員、日販テックシード(株)、パーソルR&D(株)、フリーランス、三菱電機(株)、ラピステクノロジー(株)、(株)Natte、(株)NTTデータアイ、(株)エイティワンプロデュース、(株)カプコン、(株)シークス、(株)スタイリッシュホーム、(株)ビッツ、(株)リクルートR&Dスタッフインテック、山形第一信用組合、中央化学(株)、鈴木工業(株)、山形大学大学院(21名)	

2-1. 大学院理工学研究科(工学系) 博士前期課程

専攻	就職内定先・進学予定先 (順不同)
化学・バイオ工学専攻	凸版印刷(株)(2名)、ニプロ(株)(2名)、AGCエレクトロニクス(株)、DIC(株)、JFEエンジニアリング(株)、JSR(株)、MGCエレクトロロク(株)、YKK AP(株)、アイ・シーエンジニアリング(株)、アキレス(株)、旭有機材(株)、アドバンテック(株)、アルフレックスファインケミカル(株)、川研ファインケミカル(株)、キオクシア、興亜硝子(株)、広栄化学(株)、大日精化工業(株)、ディップソール(株)、東邦化学工業(株)、東洋ビューティ(株)、日油(株)、日弘ビックス(株)、日本ゼオン(株)、ニプロファーマ(株)、日本コルマ(株)、日本特殊陶業(株)、日本ファインセラミックス(株)、パルセ化学(株)、ホーユー(株)、保土谷化学工業(株)、三菱ケミカルエンジニアリング(株)、ヤマハ発動機(株)、レンゴー(株)、(株)DTS、(株)NTKセラテック、(株)イノアックコーポレーション、(株)キャタラー、(株)ジェイテック、(株)メニコン、(株)仙山村田製作所、(株)東陽理化学研究所、京セラ(株)、三井金属鉱業(株)、三菱ガス化学(株)、住友大阪セメント(株)、仙台小林製薬(株)、大日本塗料(株)、東和薬品(株)、日光金属(株)、日清食品ホールディングス(株)、日東紡績(株)、日本航空電子工業(株)、本田技研工業(株)、山形大学大学院(3名)
情報・エレクトロニクス専攻	NECソリューションイノベータ(株)、Sky(株)、旭化成エンジニアリング(株)、エヌ・デーソフトウェア(株)、オン・セミコンダクター(株)、神田通信機(株)、クレハ(株)、国土交通省 東北地方整備局、シャチハタエンジニアリング(株)、信越化学工業(株)、シンフォニアテクノロジー(株)、スズキ(株)、セイコーエプソン(株)、セコム(株)、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)、東通インテグレート(株)、日清紡マイクロデバイス(株)、日本航空電子工業(株)、パクテラ・テクノロジー・ジャパン(株)、パナソニック インダストリー(株)、パナソニック コネクト(株)、日立通信情報エンジニアリング(株)、フクダ電子(株)、富士通(株)、フリーランス、マクセルフロンティア(株)、明電システムソリューション(株)、ヤマハモーターエンジニアリング(株)、ユニアデックス(株)、横浜ゴム(株)、(株)GA technologies、(株)NRIシステムテクノ、(株)VRST、(株)YCC情報システム、(株)アセプティック・システム、(株)インテリジェント ウェイブ、(株)金沢村田製作所、(株)コーシー、(株)コナエ、(株)十字電子、(株)テクノプロ テクノプロ・デザイン社、(株)ニチレイフーズ、(株)パナソニックシステムネットワークス開発研究所、(株)日立アドバンスシステムズ、(株)日立ソリューションズ・クリエイト、(株)明電舎、三島光産(株)、大日本印刷(株)、東京エレクトロン(株)、東芝デジタルソリューションズ(株)、東日本旅客鉄道(株)、日東電工(株)、富士通コンポーネント(株)、富士電機(株)、本田技研工業(株)、山形大学大学院(2名)

機械システム工学専攻	いすゞ自動車(株)(4名)、スズキ(株)(2名)、セイコーエプソン(株)(2名)、富士電機(株)(2名)、古河機械金属(株)(2名)、(株)マキタ(2名)、AGCディスプレイガラス米沢(株)、Japan Advanced Semiconductor Manufacturing(株)、JFE条鋼(株)、NITTOKU(株)、アクセンチュア(株)、アルプスアルパイン(株)、オリエンタルモーター(株)、キオクシア(株)、シミズ工業(株)、白河オリンパス(株)、住友重機械工業(株)、セイコーインスツル(株)、大和製罐(株)、テイ・エステック(株)、テルモ(株)、東京エレクトロン(株)、東芝エレベータ(株)、東芝キャリア(株)、東北電力(株)、トヨタ自動車(株)、日機装(株)、日鉄ソリューションズ(株)、日東紡績(株)、パナソニック(株)、日立建機(株)、北陸ガス(株)、本田技研工業(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、村田機械(株)、明和工業(株)、矢崎総業(株)、ヤマハ発動機(株)、横浜ゴム(株)、(株)NTTデータザムテクノロジーズ、(株)アイレックス、(株)アマダ、(株)イー・アンド・デイ、(株)クラレ、(株)小糸製作所、(株)タンガロイ、(株)チノー、(株)デンソー、(株)豊田中央研究所、(株)日産オートモーティブテクノロジー、(株)日立ハイテク、(株)日立ビルシステム、(株)ヨコオ、山形大学大学院
建築・デザイン・マネジメント専攻	鹿島建設(株)(2名)、YKK AP(株)、大林組(株)、(株)片桐製作所、(株)シェルター、(株)スガサワ、(株)ルデラ、(株)鈴木建築設計事務所、日建塗装協業(株)

2-2. 大学院有機材料システム研究科博士前期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
有機材料システム専攻	デクセリアルズ(株)(3名)、ローム(株)(3名)、三菱ケミカル(株)(3名)、住友理工(株)(3名)、東京エレクトロン(株)(3名)、アキレス(株)(3名)、NOK(株)(2名)、キオクシア(株)(2名)、ニチアス(株)(2名)、(株)メイコー(2名)、大日精化工業(株)(2名)、第一工業製薬(株)(2名)、東京応化工業(株)(2名)、東洋紡(株)(2名)、凸版印刷(株)(2名)、日東紡績(株)(2名)、AGCディスプレイガラス米沢(株)、JFEテクノリサーチ(株)、JR東日本メカトロニクス(株)、JSR(株)、アリメント工業(株)、イーピーエス(株)、オムロン(株)、キオクシア岩手(株)、キンセイマティック(株)、コトリコーヒー、三和テック(株)、シャープ(株)、セイコーエプソン(株)、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)、大八化学工業(株)、タマポリ(株)、ちふれホールディングス(株)、デンカ(株)、豊田合成(株)、トヨタ自動車(株)、トヨタ紡織(株)、ナミックス(株)、ニプロファーマ(株)、女神インキ工業(株)、ヤヨイ化学工業(株)、リスパック(株)、旭川信用金庫、(株)SCREENセミコンダクターソリューションズ、(株)SIGMA、(株)T&K TOKA、(株)オリジン、(株)クラレ、(株)ダイセル、(株)タムラ製作所、(株)タムロン、(株)テクノプロ テクノプロ・R&D社、(株)荏原製作所、(株)潤工社、(株)有沢製作所、京セラ(株)、高圧ガス工業(株)、黒金化成(株)、材料科学技術振興財団、三井化学(株)、三菱ガス化学(株)、山栄化学(株)、芝浦メカトロニクス(株)、住友大阪セメント(株)、住友電気工業(株)、出光興産(株)、信越ポリマー(株)、信越化学工業(株)、新栄クリエイト(株)、新潟太陽誘電(株)、大塚テクノ(株)、中央発條(株)、帝人(株)、東洋インキ SCホールディングス(株)、東洋システム(株)、日興リカ(株)、日産自動車(株)、日本航空電子工業(株)、日本製紙(株)、富士フィルムワコーケミカル(株)、豊田合成(株)、矢崎総業(株)、理想科学工業(株)、山形大学大学院(4名)、東京農工大学大学院	

3-1. 大学院理工学研究科(工学系)博士後期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
物質化学工学専攻	三菱ガス化学(株)、住友化学(株)、東京エレクトロン(株)、保土谷化学工業(株)	
バイオ工学専攻	ベーリンガーインゲルハイム製薬(株)	
電子情報工学専攻	独立行政法人産業技術総合研究所、有職者(1名)	

3-2. 大学院有機材料システム研究科博士後期課程

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
有機材料システム専攻	クルナ大学、ケイミュー(株)、(株)山のむこう、(株)T B M、信越化学工業(株)、有職者(3名)	

令和4年度 卒業・修了者の就職状況

(令和5年4月15日現在)

学科・専攻別	工学部 昼間・Aコース									工学部 フレックスコース		博士前期								合 計		
	高分子・有機材料工学専攻	機能高分子工学専攻	化学・バイオ工学専攻	物質化学工学専攻	バイオ化学工学専攻	情報・エレクトロニクス専攻	機械システム工学専攻	建築・デザイン専攻	計	システム創成工学専攻	計	有機材料システム専攻	化学・バイオ工学専攻	情報・エレクトロニクス専攻	情報科学専攻	機械システム工学専攻	システムデザイン・マネ	経営学専攻	ものづくり技術			
概 況	卒業・修了者数	142 (22)	1 (0)	144 (46)	1 (1)	1 (0)	144 (9)	143 (5)	27 (15)	603 (98)	47 (7)	47 (7)	110 (19)	59 (11)	59 (1)	1 (0)	62 (1)	11 (3)	2 (0)	304 (35)	954 (140)	
	就職希望者数	30 (2)	1 (0)	64 (22)	1 (1)	1 (0)	65 (4)	65 (5)	18 (12)	245 (46)	21 (6)	21 (6)	104 (18)	56 (11)	56 (1)	1 (0)	61 (1)	8 (2)	0 (0)	286 (33)	552 (85)	
	自営希望者数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	3 (0)	4 (0)	4 (0)
	進学希望者数	104 (20)	0 (0)	75 (23)	0 (0)	0 (0)	74 (4)	73 (0)	9 (3)	335 (50)	21 (1)	21 (1)	5 (1)	3 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (1)	367 (52)	
	その他	8 (0)	0 (0)	5 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (1)	5 (0)	0 (0)	23 (2)	4 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	4 (1)	31 (3)	
概 況	就職内定者数	30 (2)	1 (0)	64 (22)	1 (1)	1 (0)	65 (4)	65 (5)	18 (12)	245 (46)	22 (6)	22 (6)	105 (18)	56 (11)	56 (1)	1 (0)	61 (1)	8 (2)	2 (0)	289 (33)	556 (85)	
	未内定者数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	内定率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
就職決定率(%)	78.9	100.0	92.8	100.0	100.0	92.9	92.9	100.0	91.4	84.6	84.6	100.0	100.0	98.2	100.0	100.0	72.7	100.0	98.6	94.7		

[注] ()内の数字は女子を示し内数である。
 就職内定率：就職内定者数÷(就職希望者数+自営希望者数)
 就職決定率：就職内定者数÷(卒業・修了者数-進学希望者数)である。

県内就職内定者数	6 (0)	0 (0)	17 (5)	0 (0)	0 (0)	6 (1)	10 (0)	2 (2)	41 (8)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (2)	1 (0)	10 (2)	52 (10)
県内就職内定率	20.0	0.0	26.6	0.0	0.0	9.2	15.4	11.1	16.7	4.5	4.5	1.9	0.0	5.4	0.0	1.6	37.5	50.0	3.5	9.4

山形大学工学部後援会会則

(名称及び事務所)

第1条 本会は、山形大学工学部後援会と称する。

第2条 本会は、次に掲げる会員をもって組織する。

(1) 工学部学生の保護者並びに大学院理工学研究科(工学系)及び、大学院有機材料システム研究科学生の保護者

(2) 工学部に勤務する教職員

(3) 本会の趣旨に賛同する者

第3条 本会の事務所は、山形大学工学部に置く。

(目的及び事業)

第4条 本会は、工学部の教育及び運営に協力し、併せて学生、教職員の福利厚生
の向上を図るとともに、学生の課外活動を育成援助することを目的とする。

第5条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

(1) 学生の教育、課外活動及び就職斡旋に必要な助成

(2) 学生及び教職員の福利厚生に必要な助成

(3) その他、本会の目的達成に必要なこと。

(役員及び任務)

第6条 本会に、次の役員を置く。

(1) 会長

(2) 副会長

(3) 理事

(4) 監査

(5) 幹事

第7条 役員の出選は、次のとおりとする。

(1) 会長は、会員の推挙による。

(2) その他の役員は、会長が会員の中から委嘱する。

第8条 役員任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

第9条 役員任務は次のとおりとする。

(1) 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある場合その職務を代行する。

(3) 理事は、本会の重要案件を審議する。

(4) 監査は、本会の会計を監査する。

(5) 幹事は、本会の会務を処理する。

第10条 本会に、顧問をおくことができる。

(会議)

第11条 本会に、審議決定機関として、理事会を置く。

2 理事会は、会長、副会長、理事及び監査を持って構成する。

3 理事会は、原則として年1回開くものとする。ただし、会長が必要と認めたと
きは、臨時に開くことができる。

4 会長は、理事会を招集し、その議長となる。

第12条 理事会は、次に掲げる事由を審議決定する。

(1) 会務の報告

(2) 事業計画に関すること。

(3) 予算及び決算に関すること。

(4) 会則の改正に関すること。

(5) 会長の推挙に関すること。

(6) その他理事会において必要と認められた事項

(会計)

第13条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもってあてるものとし、保
護者の会費は、入学時または編入学時に全納するものとする。

2 納付した会費は、返還しないものとする。

3 会費の額は、別に定める。

第14条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(準則)

第15条 本会に、次の帳簿を備える。

(1) 会員名簿

(2) 役員名簿

(3) 会議録

(4) 会計簿

第16条 本会の運営に必要な事項は、別に定めることができる。

附 則

1 この会則は、平成8年4月1日から施行する。

2 山形大学米沢教育振興会規則(昭和23年4月1日制定)及び山形大学米沢体育
後援会規則(昭和25年4月1日制定)は廃止する。

附 則

この会則は、平成12年5月29日から施行し、平成11年4月1日から適用する。

附 則

この会則は、平成16年6月29日から施行する。

附 則

1 この会則は、平成16年12月15日から施行する。

2 改正後の会費については、平成17年度入学生から適用する。

附 則

この会則は、平成17年12月6日から施行する。

附 則

この会則は、平成21年6月19日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則

この会則は、平成28年6月17日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

工学部後援会会費

山形大学工学部後援会会則第13条第3項の規定に基づき、会員が納入する会費
は、次のとおりと定める。

(1) 学部学生の保護者 26,000円

(2) 3年次編入学学部学生の保護者 13,000円

(3) 大学院(博士前期課程)学生の保護者 13,000円

(4) 大学院(博士後期課程)学生の保護者 19,500円

(5) 本会の趣旨に賛同する者

令和3年度 一般会計収支決算書 及び 令和4年度 一般会計収支予算書

収入の部

(単位:円)

項 目	令和3年度			令和4年度 予算額
	予算額	決算額	差引増減額	
会 費	21,820,500	19,695,000	△ 2,125,500	22,509,500
繰 入 金	0	0	0	
雑 収 入	2,000	37,758	35,758	2,000
繰 越 金	6,898,253	6,898,253	0	9,707,769
合 計	28,720,753	26,631,011	△ 2,089,742	32,219,269

支出の部

項 目	令和3年度			令和4年度 予算額
	予算額	決算額	差引増減額	
1 学科厚生補導費	1,271,900	1,271,900	0	1,301,900
学部学生指導 補助費	576,800	536,800	40,000	587,200
学科行事等 補助費	695,100	735,100	△ 40,000	714,700
2 一般厚生補導費	3,793,500	1,155,790	2,637,710	3,661,500
国際交流関係 補助費	500,000	10,304	489,696	500,000
TOEIC-IP テスト補助費	1,000,000	903,600	96,400	1,000,000
学務関係補助費	1,000,000	38,865	961,135	1,000,000
保健管理関係 補助費	30,000	0	30,000	30,000
理容部運営 補助費	350,000	203,021	146,979	200,000
基盤教育事業 後援費	913,500	0	913,500	931,500
3 進路対策補助費	20,000	0	20,000	20,000
4 学生研究助成費	800,000	575,000	225,000	800,000
5 課外活動補助費	1,000,000	300,000	700,000	1,000,000
6 一般体育設備等 補助費	50,000	0	50,000	100,000
7 厚生施設等環境 整備補助費	500,000	63,025	436,975	500,000
8 研修行事等関係 補助費	150,000	0	150,000	150,000
9 学部渉外関係 補助費	500,000	8,770	491,230	500,000
10 大学行事補助費	2,000,000	505,630	1,494,370	2,000,000
11 運 営 費	3,815,000	2,468,127	1,346,873	4,315,000
広 報 費	1,500,000	1,508,826	△ 8,826	1,500,000
会 議 費	150,000	4,180	145,820	150,000
通 信 費	10,000	0	10,000	10,000
事 務 費	1,000,000	849,171	150,829	1,500,000
旅 費	50,000	0	50,000	50,000
地区別説明会費	1,000,000	5,400	994,600	1,000,000
学園都市推進 協議会費	100,000	100,550	△ 550	100,000
雑 費	5,000	0	5,000	5,000
12 積 立 金	3,000,000	3,000,000	0	2,000,000
13 施設協力金	8,392,500	7,575,000	817,500	10,000,000
14 予 備 費	3,427,853	0	3,427,853	5,870,869
合 計	28,720,753	16,923,242	11,797,511	32,219,269

山形大学工学部父母等の集い 2022年度実施報告と2023年度開催予定

■令和4年度 実施報告

地域	開催日	申込人数
対面開催(米沢)	10月8日(出)	134名
オンライン開催	11月5日(出)	181名

■今年度 開催予定

地域	開催予定日
対面開催(米沢)	10月7日(出)
オンライン開催	11月4日(出)

お知らせ

◎各種相談の窓口

学務課学生支援担当 (☎0238-26-3017)

→授業料免除、奨学金、就職、インターンシップ、留学、学生寮、サークル活動、健康相談、
こころの悩み

学務課教育支援担当 (☎0238-26-3015)

→教務(授業・履修・成績)、教員免許、諸証明書の発行、休・退学、転学部・転学科、
科目等履修生、TA

学務課入試担当 (☎0238-26-3013)

→各種(学部・大学院)入学試験、編入学試験

令和5年度工学部年間予定表

前期(令和5年4月1日～9月30日)

春季休業：2月20日～3月31日

授業期間：4月10日～7月21日

定期試験・まとめ：7月18日、24日～28日、31日

補講期間：8月1日～4日、7日

夏季休業：8月8日～9月30日

9月学位記授与式：9月25日

後期(令和5年10月1日～令和6年3月31日)

授業期間：10月2日～1月29日

10月入学式：10月2日

開学記念日：10月15日

冬季休業：12月25日～1月10日

定期試験・まとめ：1月30日、31日、

2月1日、5日～7日、9日

補講期間：2月8日、13日～16日、19日

春季休業：2月20日～3月31日

学位記授与式：3月21日

【後援会通信】

工学部後援会では、ホームページに各種お知らせを掲載しております。

山形大学工学部父母等の集いの開催案内につきましても、開催日が近づきましたら、ホームページに掲載し、参加申込みを受け付けます。みなさまのご参加を教職員一同お待ちしております。